

帰依住職の

イツペー

チビラーサン

沖繩の年中行事

7 冬至

とを、トウンジービーサ
 (冬至寒さ) といいますが、寒さに負けることなく、毎日を元気よく生活するために、地域によっては炊き込みご飯のようなトウンジージュシー(冬

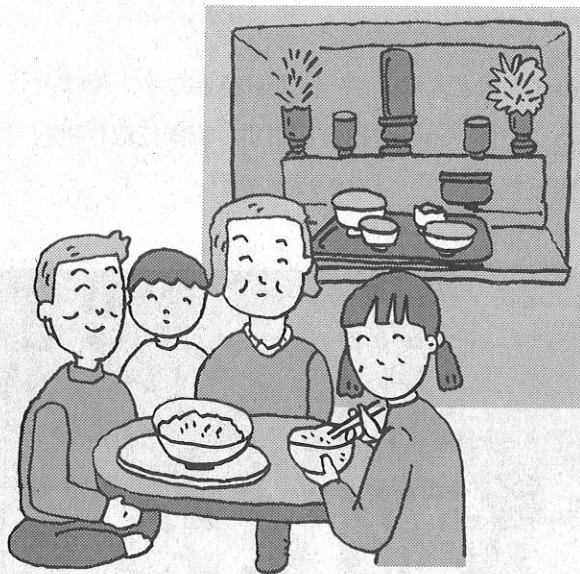
至雑炊) を食べることもあります。
 私の実家のある岡山でも、沖繩と同じようにこの冬至を年中行事としてとても大切にしています。
 私が子どものころ、冬至

ジューシーで健康願う

古代中国では、冬至を曆の始まりとする考え方がありました。特別な料理を準備して、一年の出発をお祝いしていたそうです。沖繩でも、冬至雑炊をおいしくいただく、元旦を迎えたことと同じになると考える方々もおられます。

ハイサイ！ この沖繩の年中行事のコーナーも、早いもので7回目。今回を含めて、残り6回で一年を代表する沖繩の年中行事を書かせていただきたいので、今日は冬至のお話をしたいと思います。

夏の夏至は、1年中で一番昼が長く、夜が短い日です。一方、冬至は、1年中で一番昼が短く、夜が長い日です。旧暦11月(今年是新暦12月の下旬)の冬至のころには、特に寒さが身にしみてくるようになります。この寒さのこ



を迎えますと、夕飯のおかずは必ずカボチャでした。地域によっては小豆やコンニャク、昆布を食べることもあるようです。

その時、決まって耳にしたのは「風邪をひかないため」という理由でした。沖繩の冬至雑炊も、同じ理由で多くの方々に食べられているようです。

イツペー チビラーサン！
 (とても素晴らしいです

昼の時間が短くなる冬至は、太陽の恵みである光を浴びる時間も短くなることから、日ごろ、当たり前になっっている太陽や自然の恵みに私たちが感謝することを教えてくれる、そんな大切な年中行事であるのかもしれないね。

(帰依龍照 球陽寺住職、タイムスカルチャーセンター「基礎から学ぶ沖繩

の年中行事」講師)